

科目名称	成人看護学Ⅲ（回復期看護）	学年学期	単位数	時間数
		第2学年 前期	1	30
担当教員	小路 陽子	授業に関わる 実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】授業概要

回復期は、病気からの回復あるいは障害への移行、依存から自立への移行、入院患者から地域での生活者への移行の時期である。疾病や障害によって変化したセルフケア能力を再び獲得する過程にリハビリテーションは欠くことができない。リハビリテーションの考え方を通して機能障害のレベルと回復時期に応じた援助方法を学ぶ。

【2】学習目標

1. 回復期における対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解できる
2. 回復期における対象の機能障害と日常生活の変化を関連させて考えられる
3. 回復期における対象の二次的障害の予防のための観察方法が説明できる
4. 回復期における対象の日常生活拡大・自立への援助を計画できる
5. チームアプローチの意義およびチームにおける看護師の役割、他職種との連携を理解できる

【3】第1看護学科ディプロマ・ポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳、権利を尊重した判断・行動
- 3. 多様な価値観、共感的態度、倫理に基づいた看護実践
- 4. 科学的根拠に基づいた看護実践
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 自己の資質向上のための主体的な学び

【4】授業計画

	内容	主な授業形態
1	回復期看護とリハビリテーションについて	講義
2	障害の分類とリハビリテーションについて	講義
3	リハビリテーション看護に必要な基本理念と評価ツールについて①	講義
4	リハビリテーション看護に必要な基本理念と評価ツールについて②	グループワーク
5	運動器障害(骨折)のある対象の看護について①	講義
6	運動器障害(骨折)のある対象の看護について②	グループワーク
7	中枢神経系の障害(脳梗塞)のある対象の看護について①	講義
8	中枢神経系の障害(脳梗塞)のある対象の看護について②	講義
9	中枢神経系の障害(脳梗塞)のある対象の看護について③	講義・演習
10	中枢神経系の障害(脊髄損傷)のある対象の看護について①	講義
11	中枢神経系の障害(脊髄損傷)のある対象の看護について②	グループワーク
12	事例展開と小テスト	グループワーク
13	第1回目～第11回目までの学習をもとに回復期の対象に必要な看護を考える	グループワーク
14	回復を支える看護師の役割とチームアプローチ	講義
15	試験・まとめ	

【5】評価方法

筆記試験(60%)、小テスト(20%)、グループワーク(10%)、課題(10%)で総合的に評価する。

【6】教科書

系統看護学講座 別巻「リハビリテーション看護」医学書院 2021年

【7】参考書

- ・系統看護学講座 成人看護学、成人看護学総論、医学書院、2018
- ・系統看護学講座 臨床看護総論、医学書院、2018
- ・系統看護学講座 成人看護学⑦脳・神経、医学書院、2018
- ・系統看護学講座 成人看護学⑩運動器、医学書院、2018

【8】受講生へのメッセージ

この科目では、回復期とはどんな時期なのか、回復過程にある患者さんにはどのような看護が必要なのかを学びます。学びを成人看護学実習で活かせるよう、一緒に学習しましょう。